

WoodyValleyパラグライダーハーネスは3年間保証付きです！！
ウッディーバレーハーネスについてカスタマー登録はがきをお送りいただいたお客様に、3年間保証をさせていただいております。

保証内容	＊通常使用による保証期間　：　3年
	＊クラッシュを含む使用状況を問わない保証期間　：　1年
	パーツ代や交換品については実費となります）
保障対象外パーツ	下記のパーツ及び部分については保証外・実費修理となります。）
	＊ポッドハーネスのつま先部分　地面との摩耗部分
	＊ネオプレーンゴム部分
	＊ジッパー
	＊超軽量ポッドハーネス X-Alps の頭部インフレーション部分
	＊ハーネス本体以外の部品　カラビナ・プロテクション・成形用アクリル板　レキサン）・フットバー等
修理に際しての往復送料については、お客様負担とさせていただきます。	

㈱SPORTS OPA KITE
メンテナンス部　〒315-0101 茨城県石岡市大増1900
TEL:0299-44-3642　FAX:0299-44-3939
E-MAIL:itajiki@opa.co.jp

INDEX

THANK YOU！

この度はウッディーバレー社の製品をお買い上げいただき、ありがとうございます。この取扱説明書には重要な内容は記載されていますので、よく読んでください。特に最重要の2点について御注意ください。

緊急パラシュートの装填
あなたは緊急パラシュートによって命を救われるかも知れないのです。それは2日後に起きる事もあり得るし2年後かも知れません。いざと言うときに確実に役立つように取り扱いましょう。

ハーネスの調整
ハーネスはパラグライダーとパイロットをつなげる道具であり、フライトの楽しさと性能を最高に引き出すことのできる大切な存在です。出来の悪いハーネスでも最高の調整がなされていれば良いフライトを楽しむことが出来ます。しかしどんなに良いハーネスでも調整が悪いと飛べたものではないのです。

このハーネスによってパイロットの皆様が、快適に飛び、楽にコントロールし、性能を引き出し、フライトの喜びを存分に味わえるようになることを確信しています。取扱説明書を読むのは退屈な作業かも知れませんが、パラグライダーハーネスは身近な家電製品などとは違います。正しい使用方法を理解していただいて事故のリスクを減らしてください。この取扱説明書には、あなたのハーネスの組立、調整、飛行、収納に必要な情報が全て入っています。自分の装備について漏れのない知識を持つことによって、パイロットの安全と飛行レベルは確実に向上します。

セーフティー ノート～安全に関するお知らせ
ウッディバレー社のパラグライダー機材を購入していただくに当たって、購入者は適切なパイロット技量を認定されたパラグライダーパイロットであることを自ら認め、負傷ないし死亡を含むパラグライダー活動に伴う全ての危険性を引き受けられたものとします。ウッディバレー社のパラグライダー機材の不正確あるいは不適切な使用はこれらの危険性を高めます。いかなる場合においても、ウッディバレー社およびウッディバレー社製品取り扱い店は、ウッディバレー社のパラグライダー機材使用に関連したパイロット本人あるいは第三者の負傷、あるいはいかなるタイプの損失についても、責任を持つものではありません。ウッディバレー社のパラグライダー機材の使用に関してのお尋ねは、まずご購入先かあなたの国の輸入店までお願いいたします。

Woody Valley

危険・警告
1） 安全に正しくお使いになるために、ご使用前に必ずこの取り扱い説明書を最後までよくお読みになった上で、指示内容を守ってお使い下さい。 **2） 本ハーネスはパラグライダー専用ハーネスです。その他の目的で使用しないでください。** **3） 本ハーネスは改善等の為、予告なしに仕様・価格等を変更する場合があります。**

1－ 一般情報

この装備に含まれるのは：

- ハーネス
- ポリカーボネイト座板
- コンポジット足プレート
- カラビナ2個
- 緊急パラシュート開傘ハンドル
- 緊急パラシュートコンテナ閉鎖用バンジーループ（予備2個）
- 3段スピードバー
- バックプロテクション

オプション：

- バラストバッグ（キャリングハンドル・チューブ・排出弁付き）
- 左サイドパラシュートコンテナ設定

1．1 コンセプト

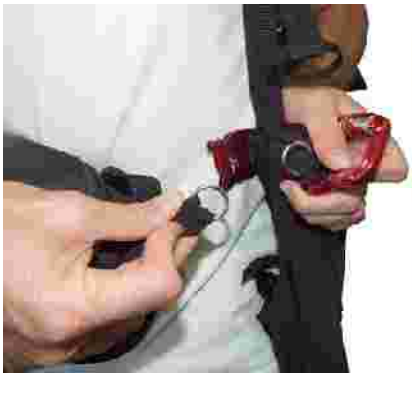
Xアルプス GTO（グラン ツーリスモ オモロゲイト～認定型 GT）は、その名の由来であるXアルプス大会向けに設計された名高いハーネスから発展したフル認定モデルです。その基本コンセプトは軽量・安全性・快適性にあり、これによって比類なきフライトの喜びとLTF規準を完全に満たす認定を受けた製品で飛ぶという安心感が得られます。その主要構造の設計とアクティブコントロール特性は、幅広いパイロット層にとって理想的なものです。その超軽量は、地上での移動を容易にします。
足ベルトと胸ベルトには「ゲットアップ（安全システム」と画期的なDRCシステムが装着され、足ベルと閉め忘れによるハーネスからの落下事故を防いでいます。

1．2 Xアルプス GTOのプロテクション

Xアルプス GTOは12cm厚のフォームを使ったLTF認定の新型バックプロテクションを装備しています。

1．3 DRC

ウッディーバレーチームによって開発されたこの画期的なシステムは、いまだに続く胸ベルトと足ベルトの締め忘れ事故へ対応するために生み出されました。Tロックやゲットアップといった今までのセーフティーシステムでは、ある種のケースでは、特にフロントクローズでパイロットの足が完全にカバーされるタイプのハーネスでは、充分な防止策にはならないことがはっきりしたからです。ウッディーバレー社が1999年にXレイテッド1を発表して以来、このタイプのハーネスはパラグライダー市場においてますます増えてきています。
このDRC（デュアルリングコネクション）システムはXアルプス GTOハーネスで使用しているゲットアップシステムを補完するもので、胸ベルトのバックルを握らずにハーネスのフロントを閉じることが出来ないようになっています。





１．４　SOSラベル
この赤地に白文字のラベルは肩ベルトのパッド部にあるポケットに入っていて、すぐ見えるようになっています。簡単に取り出せ、紛失防止のためヒモでハーネスに取り付けられています。そしてこのラベルの裏面に、事故救出時に必要となる緊急情報を記入しておくことができます。

２－　　ハーネス使用の前に

Xアルプス GTOはバックプロテクションとポリカーボネイト製プレートをメーカーで装着した状態で出荷されます。緊急パラシュートの装着は、認定インストラクターなどの然るべきプロの手によって充分な注意のもとに実施されなければなりません。それが完了するまでは、パイロットに合わせたハーネス調整は行なわないでください。

２．１　緊急パラシュート
緊急パラシュートの収納部はハーネス前部の座板の下になります。そのコンテナの大きさは現在のパラグライダー市場に出ているほとんどの緊急パラシュートに対して充分なものです。緊急パラシュートをハーネス内へ装着する前にまず、緊急パラシュートのブライダルをハーネスの肩の高さのところにある2本ブライダルへ接続します。このハーネス側ブライダルによって開傘時の荷重配分と着地姿勢が正しく保たれ、着地時の負傷リスクを最低限に抑えています。ハーネス側ブライダルには、コーデュラ500生地のカバーで補強された赤色の大きなセンターループが付いていて、その末端についているベルクロ
テープによって緊急パラシュート側ブライダルとの接続点がしっかり固定できるようになっています。

２．１．１　デプロイメントバッグへのデプロイメントハンドルの取り付け
Xアルプス GTOは専用の緊急パラシュート引き出しハンドルと一緒に出荷されます。このハンドルのモデル番号は　6」番で、ほかのハンドルは使用しないで下さい。
ハンドルについている黒いループをデプロイメントバッグのループの下へ通し、次にハンドル本体を黒いループの中にくぐらせたら引っ張って結び目を絞ってください。すぐに引き出してこれるよう、黒いループは緊急パラシュートの中心に対して引き出し出口側になるようにしてください。デプロイメントバッグに適切なループが付いていない場合は、緊急パラシュートの購入先と御相談ください。

２．１．２　緊急パラシュートのハーネスへの取り付け
緊急パラシュート側のブライダルをハーネス側のブライダルへ接続するには、3つの方法があります。

接続方法その１
2,000kg以上の破壊強度を持つねじロック型のカラビナを使用する方法。この場合、ブライダルに対してカラビナが回って横を向かないよう、ゴムバンドを用いて、ブライダルがずれないよう固定します。カラビナのねじロックはしっかりと締め、緩んできて開くことのないようにしてください。この方法は次に述べる方法よりも高い開傘ショックに耐え、最もお勧めできる接続方法です。

接続方法その２
まず緊急パラシュート側のブライダルの端のループの中にハーネス側のブライダルを通し、つぎに緊急パラシュート本体をこのハーネス側のブライダルの大きなループの中にくぐらせていき、2つのブライダルを引き絞って接続する方法。開傘ショックで合成繊維製のブライダル同士で摩擦が発生して破壊しないよう、出来るだけしっかりと引き絞ってください。そのうえで、結束部が緩んでこないよう、ハーネス側のブライダルについているベルクロで結束部を縛ってください。

接続方法その３
もし御使用の緊急パラシュートが操縦可能なもので２本ブライダルをもっているか、いずれにしても２本ライザーブライダルを装備しているものでしたら、肩ベルトの近くにあるハーネス側のブライダルの付根にある２つのループへ接続することが出来ます。この場合、ハーネス側のブライダルは、使用しないので、折りたたんで２本のゴムバンドで縛り、パイロットの首の後ろにあるカバーの下に収納してください。

２箇所のブライダル接続にはそれぞれ 1,400kg以上の破壊強度を持つねじロック型カラビナを使用してください。また、パラシュートをハーネスに装填した状態で緊急パラシュートのブライダルの長さが取付け点まで充分な長さを持ち、パラシュートをコンテナから引き出すさいに間違って途中でパラシュートが開傘しないか、をチェックすることが重要です。

重要：
横方向の異常な荷重負担を避けるため、どちらか１つのループだけでなく、ブライダルは必ず肩ベルトの２つのループへそれぞれ接続してください。

２．１．３ 緊急パラシュートのXアルプスGTOへの装填
緊急パラシュートをXアルプスGTOへ装入するさいは、引き出しハンドルが外から見えていて、ハンドルが外側を向き、ハンドルの取り付けループが上を向くようにしてください。







後の作業が楽になるように、セーフティーピンどめ用の付属のバンジーループの中に細いヒモ パラグライダーのロワーラインなど）を通しておきます。
このヒモとバンジーループをハーネスパラシュートコンテナのフラップのハトメ穴で一番小さなものに通し、以下の写真の順番でフラップを閉じていってください。





ハンドルについているメタルピンを、透明カバーの下のハトメ穴から引き出したバンジーループの中へ差し込みます。メタルピンが差さったら、バンジーループ引き出しに使った細ヒモをはずしますが、このときバンジーを摩擦で傷めないように注意深くゆっくりと引き抜いていってください。 ヒモをメタルピンの下側に回してから抜くと良いでしょう。）最後に、伸縮カバーがハンドルの上になっているようにしてください。

重要：
緊急パラシュートとハーネスあるいは外部取付けコンテナとの初めての組み合わせの場合は、必ず公認のハーネスあるいは緊急パラシュートのディーラー、あるいはパラグライダーインストラクターによってチェックしてもらってください。通常の飛行姿勢からの緊急パラシュートの開傘操作では、何らの支障無くスムーズに行なえなければなりません。

２．１．４ 緊急パラシュート開傘操作

緊急時にすぐに確実にハンドルを握れるよう、普段のフライト中に定期的にパラシュートハンドルを触ってその位置を憶えておくことはとても重要です。

緊急時の開傘手順は以下の通りです。
緊急パラシュートハンドルを見て、片手でしっかりと掴む。
外側に向かってハンドルを引き、ハーネスコンテナから緊急パラシュートを引き出す。障害物のない空間を確認し、連続した動きで緊急パラシュートをパイロットおよびパラグライダーから離れた方向へ投げる。
緊急パラシュートが開いたら、機体をつぶしてパラシュートに絡まないようにするために、少なくとも1本のDライン、あるいはブレークラインを掴んでパラグライダーを引き込む。着地時には、負傷のリスクを出来るだけ減らすために、体を起こしておき、PLF 5点接地パラシュートランディングフォール）が行なえるようにする。

２．１．５ 背中の収納ポケット

背中内部の収納ポケットを使用するには、まずハーネス後部の空気力学整形パートのジッパーを全部開け、整形パートの先端をひっくり返してください。それから内部の収納ポケットのジッパーを開けてやれば、収納ポケットへ物を入れるのが楽です。

この収納ポケットは、特にハイクで使用する装備、すなわち2本の伸縮式ウオーキングポール（Lサイズで最大長さ67cm）リュックサック、防風ジャケットなどを収納しやすいような大きさ･形状に設計されています。伸縮式ウオーキングポールの先端は、写真に示されているように、ポケットの奥にある金属製のハトメに差し込んでください。収納ポケットと空気力学整形パートのそれぞれのジッパーを忘れずに閉じてください。

重要：
ハーネスの空気力学整形パートが正しく膨らまなくなる恐れがあるので、背部収納ポケットに荷物を入れ

過ぎないようにして下さい。
ハーネスの外形に影響が出ないよう、収納ポケット内の荷物は均等になるように入れて下さい。
ハーネスの空気力学整形パート内で収納ポケットの外には荷物を一切入れないで下さい。
正しく膨らむよう、ハーネスの空気力学整形パートのジッパーがちゃんと閉じられていることを確認してください。

2．2 ハーネス調整

X-ALPSは納品時にすでに標準的なセッティングが施されていますが、パイロットの身長に合わせた調整は必要です。初フライトのさい、まず他のセッティングは変えずに身長にあわせた調整だけを行ってください。ファクトリーセッティングはほとんどのパイロットにとって満足のいくものであることが実証されています。もし他の調整へ変える場合も、全ての調整ストラップに参考となる赤い印がついていますので、簡単にファクトリーセッティングに戻すことが出来ます。

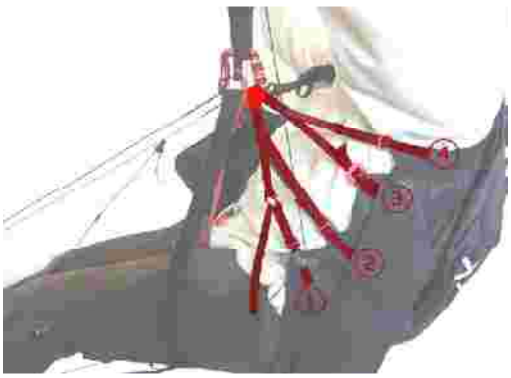


X- ALPSのサイズは、シートの幅でなく、パイロットの身長によって選定してください。このハーネスでは、背もたれ部の高さが居住性に影響しない基本的に座った姿勢のハーネスとは異なり、パイロットはより寝た姿勢となるので、居住性や正しい飛行姿勢を得るうえでバックサポート部の高さがとても大切になっています。そこで、シート幅を気にすることなく、シートバックの高さに合わせたサイズ選びが特に重要になっているのです。
最良のセッティングを得るためには、バックポケットに飛行時と同じ携行装備を入れたうえで適切なシミュレーターを用いてぶら下がり、調整してください。
重要:

- 調整を行う前にまず緊急パラシュートをハーネスに装填してください。
- 調整は必ず左右均等に行ってください。
- 全ての調整ストラップはピンと張っているようにして下さい。

2．2．1 シートとバックポジションの調整

この写真は横方向の調整の構成を示していて、背中上部から腰に至るまで多くのポイントでパイロットがしっかりと支えられています。これらの調整要素によってパイロットがしっかり支えられオールバックタイプのセッティングに調整することも可能です。



上の写真で、調整点①はパイロットの太ももと背中の角度(シートの深さ)を変えることで座板と腰にかかる重さを配分して居住性を追及できます。
調整点③は主に上体の角度を変えるのに用います。
調整点②と④は補助的な調整で、パイロットの背中とハーネスのバックシートとの当たりを良くし、サポートと居住性をより快適にする効果があります。

ストラップの調整を行うときは、かぶさっているカバーストラップを緩めてからメインストラップを調整し、うまく調整ができたら再びカバーストラップを締めこんでセッティングを固定します。

２．２．２ 肩ストラップの調整
肩ベルトを調整することでハーネスをパイロットの身長に合わせます。その調整バックルはシート後端近くの下の方にあります。また、肩ストラップはパイロットの上体の重さも一部サポートして居住性を向上させています。シート部と背中部分の配分調整が決まったら肩ストラップを調整し、肩に対してストラップが当たっていて、緩すぎたりきつすぎたりしないようにして下さい。

２．２．３ 胸ストラップの調整
胸ストラップで2つのカラビナ間の距離を、40～55cmの間で調整します。X-ALPSで初めて飛ぶときは胸ストラップを一番短くしておき、飛びながら少しずつ調整していって好みの長さを見つけていってください。胸ストラップが短く、きついほど安定性が高くなります。カラビナ間の距離を広げ過ぎてもパラグライダーの操作性は向上しません。また、狭くし過ぎた場合、非対称つぶれからのツイスト傾向を悪化させる恐れがあります。

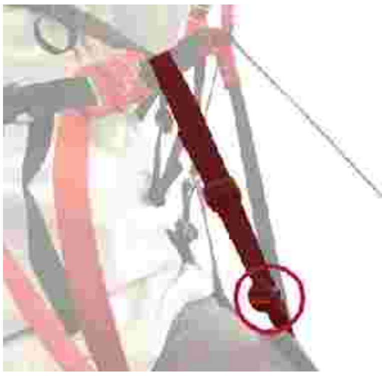
２．２．４ 脚ストラップの調整
ゲットアップシステムの特徴として脚ストラップの付根の位置は高くなっているので、脚の動きがとても自由です。通常はファクトリーセッティングで問題ないはずですが、離陸後に着座姿勢をとりにくい場合は、シートの下の脚ストラップ調整部を締めてください。これで手を使わずに楽に着座姿勢を取れるようになります。

２．２．５ スタビライザー
この小さいけれど大切な調整装置によって、スピードバーを踏み込んだときの背中のよじれを抑えてハーネスを安定させることができます。その作動原理はとても簡単で、スピードバーを踏み込んだときにこの小さなプラスティックバックルが肩ストラップを胸ストラップにつながっているところでおさえて、ハーネスのストラップシステム全体をよりしっかりと固くして、ハーネスの安定性を向上させています。この調整はファクトリーセッティングのままにしておいてください。



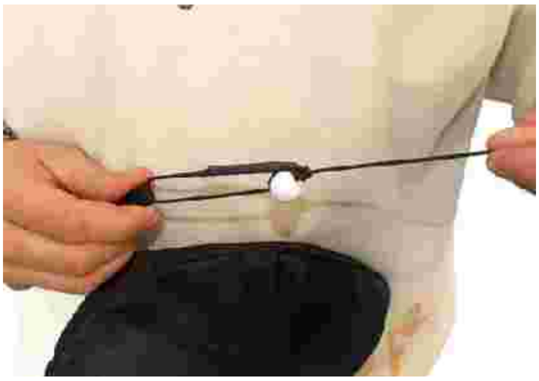
2.2.6 ABS の調整

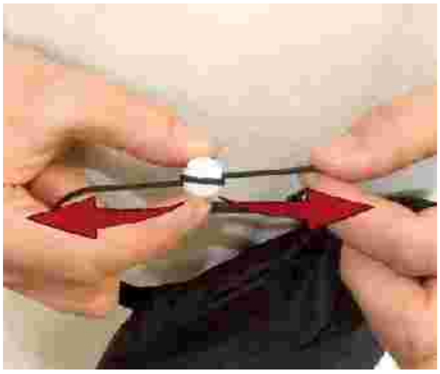
この調整は機体の操作性に影響します。ゆるくしていくとハーネスの安定性は減ってパイロットの動きに対して敏感になります。逆にきつくしていくとハーネスは安定性を増して飛行中の操作により大きな動きが求められます。
X-ALPSのABSのファクトリーセッティングはほとんどのパイロットに適したものですが、もし調整をする場合、十分に注意して毎回数ミリメートル程度のとても小さな調整量で行ってください。また左右の調整が厳密に均等であることにも注意してください。



2.2.7 レッグカバーの調整

レッグカバーの長さは下図に示されたカバー内側の4個の小さな白玉で調整できます。フットレストは膝が90度に曲がった、自然で快適な状態になるように調整されています。レッグカバーの長さはパイロットの必要に応じて左右均等に変更できます。





2.2.8 スピードバーの調整

X-ALPS は軽量化を計ったスリムな細ベルト製の3段スピードバーを装備しています。スピードバーシステムの長さ調整は、まずハーネスの調整がしっかり完了してから行なってください。スピードバーの調整を正確に行うには、シミュレーターにぶら下がってパラグライダーのライザーを接続し、他の人にライザーを持ち上げてもらって、スピードバーストラップの長さを調整してください。足を離したときにフットレストがハーネス前部の下10cm以内にくるようにしてください。ヒモを短くし過ぎるとスピードシステムが常に引かれた状態になり、飛行中に意図せずに作動してしまう恐れがあります。はじめのフライトではスピードバーをやや長めにしておいてフライトごとに少しずつ短くしていくのが安全です。また、調整の際は、左右均等に行うよう注意してください。
フットレストの変更を希望される場合も、このハーネスは全ての通常タイプのスピードバーの使用が可能です。フットレストから伸びるヒモは、まず座板中央のゴムヒモに取り付けられているループの中を通し、今度は座板の後ろ角近くにあるプーリーを経て上へ向かい、レッグカバーの小さなハトメ穴を通って、パラグライダーのライザーにある取り付けポイントへつなげます。なお、ウッディーバレーの全てのスピードバー/

フットレストについてくる2本のゴムヒモは必ず使用してください。このゴムヒモをフットレストの下側にある2つのループに結んでおくことでスピードシステムが常に適切に伸ばされ、すぐに使える状態を保ちます。



3ー　XアルプスＧＴＯでのフライト

３．１　プレフライトチェック

安全性を最大限確保するために、プレフライトチェックは完全で漏れのない手順で、毎回フライトごとに行なってください。

確認事項：

・胸ベルトの2個のバックルとDRCシステムがちゃんと閉まっているか。雪や氷が付着しそうなときは特に注意してください。雪や氷が付着している場合は、必ずバックル取付け前に拭き取ってキレイにしてください。

・ブライダルループが正しくカラビナに入っているか。

・緊急パラシュートの開傘ハンドルが正しい位置にあり、ピンが適切に差し込まれているか。

・全てのポケットとジッパーが閉じられているか。

・パラグライダーがハーネスに正しく接続されているか。2個のカラビナが本来のロックシステムどおりに正しくロックされ閉じているか。

・スピードバーがパラグライダーに正しく取り付けられているか。

３・２　ポケット

XアルプスＧＴＯには背中の大きな収納ポケットといろいろなサイドポケットが付いています。メインカラビナの近くに設定されたサイドポケットは、無線機や携帯電話を入れておくのに便利で、セーフティーループも付いています。ほかにも大き目の2つのサイドポケットがあります。これも便利な計器デッキは、コックピットからすぐに取り外せ、ブリーフィングに携行したりハーネス収納時に押しつぶされるのを防いだりできます。またこの計器デッキはジッパーが付いていて、飛行中にバラストコンパートメントにアクセスし、ランディング後は完全に取り外すことが出来ます。さらに、デッキには2mm厚のネオプレンカバーが付いていて、不意のブローなどで計器が傷むのを防ぎます。ハーネスからコンテナをはずすと、計器デッキの下にあるジッパーポケットも使うことが出来ます。

３．３　ウオーターバッグ

XアルプスＧＴＯは飲料水バッグの使用にも特に考慮しています。下の写真のように、ウオーターバッグを背中の収納ポケットのさらに中にある伸縮取り入れ口の縦長の専用ポケット装着してください。水チューブをハーネスの穴に通し、さらに左肩ベルトのライクラ製伸縮カバーの下も通して右の写真のように出してください。

3．4 バラストの装着とコックピットの使用

Xアルプス GTOはバラストコンテナが計器デッキの下、コックピットの中に装着されます。
バラストを装着するには計器デッキをはずし、さらにその下にバラストコンテナが入る布フラップのジッパーもはずします。バラストコンテナの排出チューブをコックピット下の穴を通してハーネスの外側へ向くようにして出し、バラストコンテナをコックピットの中に入れます。

コックピットに装着するバラストコンテナを使用する場合もそうでない場合も、コックピットが飛行中にパイロットの視界の妨げになったり居住性に影響したりしないよう、これらの装着調整に注意してください。バラスとコンテナの両端に調整・取付け用バックル付きのベルトが三角状に縫い付けられています。このバックルの位置とベルトの長さを変更することで、飛行中の計器デッキの高さと角度を調整することができます。また、コックピットの下を通っている2本の調整ベルトによってコックピットの容積を絞ることが出来ます。





3．5 水上でのフライト

Xアルプス GTOでのフライトを水上で行なうこと自体に、特に問題はありません。しかし、いずれにしても水面へのランディングは常に危険です。水上でのフライトには適切なライフジャケットを装着してください。

3．6 エアロ トーイング フック

Xアルプス GTOはトーイングによる離陸に使用できます。トーイング用ブライダルリリースは2個のメインカラビナに直接接続し、カラビナの開閉ゲートが後ろ側に来ていることを確認してください。それ以上の詳細については、トーイングリリース付属の説明書を読むかフライトエリアにいるトーイングの資格を持ったインストラクターに尋ねてください。

3．7 Xアルプス GTOでのランディング

ランディングの前に座板から足をずらせて出して立ち上がり、スタンディング ポジションをとっておきます。決して座った姿勢では着陸しないで下さい。高レベルのパッシブ プロテクションとなるムース バック プロテクションを装備しているとは言え、これはパイロットの背骨にとってとても危険なことです。ランディング前に確実にスタンディング ポジションをとっておくことは、アクテイブ セーフティーの事前準備であり、事故が発生してからの受身のパッシブ プロテクションに比べて、はるかに有効です。

4− ハーネスの収納

Xアルプス GTOは、パラグライダーと接続したままでも別々にたたんだ状態でも、リュックサックに収納できます。下の一連の写真を参照してください。まずレッグカバー部と背中の空気整形部を折り返してきて、2

個のカラビナを一緒にまとめます。その上にたたんだパラグライダーを乗せ、さらにその上からリュックサックを背中側が上になるように（たたんだパラグライダーがリュックサックの背中側に来るように）かぶせ、全体をひっくり返して、ジッパーを閉めます。リュックサック上部にはヘルメットを収納するのに充分なスペースが残ります。

5ー　オプションの内容と取り付け

5．1 バラストコンテナ

ウッディーバレー社純正バラストコンテナには7リットルの水が入り、キャリングハンドル、バルブ付き排出チューブが付いています。コックピットだけでなく座板下のバラスト コンパートメントにも装備できます。

5．2 左サイドパラシュートコンテナ設定

左利きのパイロットのために大切なオプションとして、左サイドパラシュートコンテナを設定することができます。これは新規の発注時のみのオプションとなっています。

6ー　メンテナンスと修理

衝撃が加わったとき、着陸あるいは離陸に失敗したとき、あるいは損傷や顕著な消耗が見受けられたときは、ハーネスを点検してください。ハーネスは2年に1度、販売者に点検してもらってください。また、2年に1度メインカラビナを交換してください。
ハーネスの不要な損耗･劣化を防ぐために、地面や石、ザラザラした場所でハーネスを引きずる事は極力避けてください。本来のフライト活動以外に紫外線（直射日光）が不必要に当たらないようにしてください。できるだけ湿気や高温からハーネスを守ってあげてください。
パラグライダー機材は全て、涼しく乾燥した場所で保管し、濡れたり湿気を含んだままでは放置しないで下さい。
ハーネスはできるだけキレイに保ち、定期的にプラスティック ブラシや絞った雑巾で土を落としてください。汚れがひどい場合は、中性洗剤と水で洗い、直射日光を避けて風通しの良い場所で自然乾燥させてください。
ジッパーは常に清潔に保ち、定期的に乾式シリコンスプレーで潤滑を保ってください。
ハーネスの修理や部品交換はパイロットではなく、ウッディーバレー社またはウッディーバレー社が認定した専門家のみが行ないます。ウッディーバレー社またはウッディーバレー社が認定した専門家だけが、認定どおりの製品の正しい機能を保つことの出来る素材と技術を持っているのです。
メンテナンス作業の要望でウッディーバレー社またはウッディーバレー社が認定した専門家へご連絡、発送いただく場合は、リアポケット内の銀色のラベルに記載されている識別番号を全桁、お知らせください。

Xアルプス GTOは高性能で軽量なハーネスを実現するために、使用している素材は高品質であるとともに標準的なハーネスよりも薄手になっているので、その使用、収納にさいしては最大限の注意をお願いします。適切な使用によってハーネスの寿命は延びます。
皆様がXアルプス GTOによって、素晴らしいフライトを楽しまれることを願います！

7ー　テクニカルデータ

Distance between karabiner and seat	Size M cm 44.5;L cm47;XL cm 49.5
Distance between karabiners(min. max.)	Size M cm 39.5/50; L cm 39.5/50;XL cm 39.5/50
Size of polycarbonate seat,size M	Width rear 23.5cm; Width front 21; depth 36.8cm
Size of polycarbonate seat,size L	Width rear 25cm; Width front 22.5; depth 39cm
Size of polycarbonate seat,size XL	Width rear 26.5cm; Width front 23.5; depth 41.5cm
Total weight of X-ALPS GTO,size L,complete with reserve parachute handle,karabiners and protection	4.965kg
Type of protection	Protection in 12 cm foam
Type of straps	GET-UP with DRC system
Reserve parachute housing	Built-in container under the seat,with lateral handle.
Certification LTF	EAPR-GZ-7438-11

WoodyValley